

# グリーン四国

No.1252  
2024年  
7月号

## 三嶺の森の再生を目指した ボランティア活動

【詳細は2頁】

小田深山

### 目次

- 三嶺の森の再生を目指したボランティア活動 ..... 2
- 高知中部森林管理署 猪野々・岡の内森林事務所  
首席森林官 森下嘉晴氏に令和6年度優良職員等表彰(林野庁長官賞) ..... 3
- 有害鳥獣捕獲わなの設置方法を学ぶ ..... 4
- 「塩の道」をつなげる調査に協力 ..... 5
- 南予森林アカデミー研修生、自然再生の取り組みについて学ぶ ..... 6
- 若手職員、刃物の「ちょっとした」技術を学ぶ ..... 8
- 着任あいさつ ..... 9
- 管内の見所紹介 段ノ谷山の天然杉群 ..... 10
- 四国森林管理局・署(所)お問い合わせ先 ..... 12



四国山の日

## 四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30  
TEL 088-821-2052  
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>  
E-mail [shikoku\\_soumu@maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@maff.go.jp)

# 三嶺の森の再生を目指したボランティア活動

高知中部森林管理署

5月25日、「三嶺の森をまもるみんなの会」と当署の主催により、別府山55林班（白髪山避難小屋周辺）において、植生回復と森林の再生を目的に、ボランティアによるシカ食害防護ネットの張り替えやメンテナンス等の補修作業を実施しました。

この活動は平成19年から年に数回実施しており、今回で39回を数える非常に息の長い活動となっています。毎年幅広い世代の方々に参加していただいております。今回のボランティア活動でも環境省や高知県、香美市、香南市の職員、高知大学生、高知農業高校生を含めた58名の一般ボランティアの方々に参加していただき、四国森林管理局・高知中部森林管理署職員を合わせて70名での活動となりました。

当日は参加者の熱意が伝わった

のか、早朝から雲一つない晴天で、絶好のボランティア日和となりました。

初めに奥物部ふれあいプラザにおいて開会式が行われ、坂本伸一郎署長による開会の挨拶と作業内容の簡単な説明をし、その後各車両で登山口へ出発しました。

作業地までの経路は、登山口から高低差約300mあり、片道約50分と長いうえ、急峻な地形を上る必要があります。時折休憩を取りな



から作業地へ向かいました。この

時期は、ツツジの花が見頃をむかえ、三嶺の美しい森の景観を楽しみながら登山をすることができましたが、一部ではシカ食害を受け下層植生がなくなった箇所や崩落もあり、ロープを伝って歩く区間もありました。

現地に到着後、各班長からの指示に基づきネットの張り替えや、支柱の撤去、穴の開いた箇所を補修といった作業を行いました。標



高の高い稜線上での作業だったことから、涼しい風と晴天で道中の苦労も忘れ、スムーズに作業を進めることができ、また参加者一人一人の頑張りもあり、スピーディーに作業が進み、予定していた補修作業や撤去作業を早めに終えることができました。

参加者からは、「きれいな景色の中で作業ができて気持ちよかった」「疲れたが楽しく作業ができた」等の声を聞くことができ、天候に恵まれて作業ができ、達成感に浸ることができたことと思います。

今後においても多くの方々にご協力いただきながら、シカの食害から三嶺の森を守る活動を続けていきたいと思っております。



高知中部森林管理署 猪野々・岡の内森林事務所  
首席森林官 森下嘉晴氏に令和6年度優良職員等表彰  
(林野庁長官賞)

〈局総務課〉

6月27日、四国森林管理局において、令和6年度優良職員として表彰を受けた職員への表彰状の伝達式を行いました。

今回の表彰は、高知中部森林管理署猪野々・岡の内森林事務所の森下嘉晴首席森林官が、四国の山々を歩き、山の魅力や地域にわたる民話・伝承などの物語を書き留めて作成したイラストを活用して、教育機関や公立図書館等における講義や風景林等の案内板の作成などの活動を行っていることが、国民の森林・林業・木材産業への関心を高めることに貢献し顕著な功績を挙げ、林野行政の推進に大きく寄与したと認められ林野庁長官賞を授与されたものです。

局長より表彰状を受け取った森下さんは「今回の表彰は大変うれしく思うとともに、今後もさらなる活動に取り組みたい」と話し、今後の活動により更に山の魅力等がPR

されることが期待されます。

なお、森下首席森林官が作成したイラストの一部については、局のホームページにおいて「四国の山々たんね歩記」として紹介しています。



表彰を受けた森下嘉晴氏 (右)



## 有害鳥獣捕獲わなの設置方法を学ぶ

〈森林技術・支援センター〉

6月12日、梅雨入り直後にもかかわらず炎天下の中、四万十署管内の縦ノ尾山4002林班において、局職員5名、四万十署職員4名を対象に、シカ、ノウサギ捕獲用わな設置の勉強会を実施しました。

今回は、6月3日に四国森林管理局で行われた有害鳥獣捕獲研修(実技)で、「こじゃんと1号」、「足くくりわな」、「針金の胴くくりわな」の組み立て方法を学習してもらった際に、設置場所等については口頭説明のみであったことから、参加者から、「実際にわなを設置するときには、是非声を掛けて欲しい」との要望があったことを受けて現地でのわな設置の勉強会を実施することとしたものです。

現地では、わなの設置場所に向かう途中の林道を歩きながら、センター担当者からシカ、ノウサギの通り道、嗜好性植物の食痕、足跡、糞など動物の痕跡、動物の生態などについての説明を行い、予めセ

ンターで設定していた各わなの設置箇所の決定理由などを確認しながら、実際にわなの設置に取り組みました。

最初に「こじゃんと1号」の設置を行いました。設置場所と獣道との関係が捕獲効率に大きな影響を与えることなどを確認しながら、わなの固定杭を重たいハンマーで叩きながら設置するなど、前半戦で大汗をかくこととなりました。

次に「足くくりわな」の設置に移り、江入企画官から小林式(※)の捕獲効率の説明と設置実演の後、各職員がわなの設置を行いました。わなを作動させるためのバネを締め付ける作業に力を要するため、皆全体力をそそぎながら取り組んでいました。

最後の「ノウサギ捕獲用の胴くくりわな」の設置では、研修と違い、実際に獣道へ設置するためか、職員の表情も自然と真剣になりました。もくもくと設置作業に取り組みました。すべての作業終了後は、それぞれ他の職員が設置したわなを確認しながら、その出来栄えに各自が納得し、評価している様子が見られました。

今回の勉強会では、わなの組み立て方を覚えることも大事ですが、現地で状況を確認しながら設置を体験することで、設置場所の状況に応じて臨機応変に取り組むことが捕獲効率の向上に繋がるということを肌で感じることができたと思います。

今後、機会をとらえて勉強会を開催していきたいと考えています。

森林技術・支援センターでは、獣害対策及び捕獲技術の継承に引き続き取り組んでまいります。

※小林式とは、誘引餌を使用した足くくりわな(笠松式)での捕獲方法



こじゃんと1号設置の様子



足くくり罠設置作業の様子



足くくり罠のバネを締め付けている様子

## 「塩の道」をつなげる 調査に協力

〈高知中部森林管理署〉

6月5日、土佐塩の道保存会から「土佐塩の道」未整備区間の調査協力依頼があり、4名の職員が調査に参加しました。

「土佐塩の道」は約400年前、高知県香南市の海浜が一大製塩地だった頃、塩をはじめ多くの生活必需物資を運ぶため、徳島県奥地までを①別府の四ツ足峠②久保の韭生③笹の矢筈峠を越える3本のルートで繋いでいた産業道です。現在は、高知県物部町から徳島県を繋ぐ道が不明のため、高知県香南市赤岡町から同県香美市物部町



本日はよろしくお願ひします！

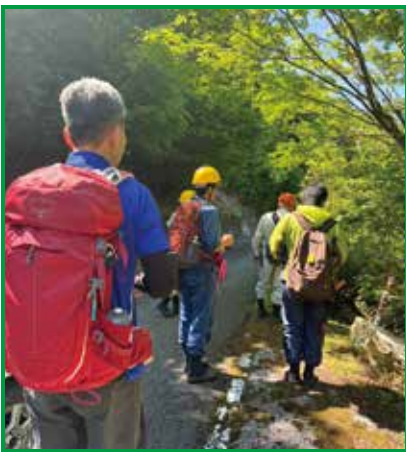
までの約30kmの区間が整備されており、令和元年に文化庁が選定する「歴史の道百選」に選ばれました。(参考：香美市ホームページ「土佐塩の道(パンフレット)」)

### ○実施内容

今回の調査は、物部町から③笹の矢筈峠までのルートを確定させることが目的でした。

地元で長年林業に携わってこられた方から、伝え聞いた塩の道についての解説と案内により、林道笹・笹上線の峠近くから山中に入り、テープで目印をつけながら進んでいきました。

歩くだけでもとても厳しい道中に、段々畑跡の石垣などを見かけ、かつてそこで人々が生活していたことに驚きや寂しさを感じました。



当日は晴天にも恵まれ、予定していた約5kmの区間を7時間かけて歩き、当時通っていたであろう道を確定することができました。

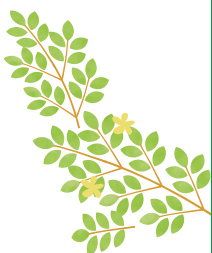
### ○おわりに

調査終了後、土佐塩の道保存会会長から「3本ある塩の道ルートの内一本でも繋げるという長年の夢が叶いました。高知から徳島を結べば、長さとしては全国2位になります。今後も歴史を継承していきたい」との挨拶がありました。

また同保存会から、「これから整備に向け、より多くの人に知ってもらうことが重要です。イベント

も歩くだけではなく、保存の重要性・大変さを知ってもらうため、整備も体験してもらうことを企画していきます。引き続き「協力をお願いします」との話がありました。

地域の歴史と文化を学び伝える「塩の道」が、今後も受け継がれ愛されていくようにと願います。



## 南予森林アカデミー 研修生、自然再生の 取り組みについて学ぶ

〈四方十川森林ふれあい推進センター〉

### ○概要

5月21日、南予森林アカデミー研修生4名を対象に、「滑床山自然再生事業の取り組みについての講習と作業体験研修」を実施しました。

この研修は、(一社)南予森林管理推進センターから、国有林で取り組んでいる自然再生事業などを題材に現地研修を受けたいと依頼があったものです。

### ○はじめに

鹿のコル駐車場において、ふれあい推進センター所長からの挨拶の後、配布資料を元に、鬼ヶ城山系の自然環境や植生分布について説明しました。また、三本杭山頂周辺ではシカ食害によりミヤコザサが消滅し、表土の流失から山腹崩壊を招く状況となっていたこと、当時のふれあいセンターが山頂周囲にシカ防護柵を設置したこと、NPO団体やボランティア等の参加協力により移植されたミヤコザサ

が回復・繁茂し、さらにオンツツジやアセビなどの群落も復活したことを説明しました。

### ○滑床山国有林

その後、八面山登山口から三本杭へ向け登山を開始し、登山道沿いにある特徴的な樹木について、当センター職員が現地樹木名板を示しつつ、名前の由来や特性などを詳しく説明しながら山頂を目指しました。

当日は好天に恵まれ絶好の登山日和となり、眼下に広がる造林地や天然林の山々を見下ろすことができ、さらにキラキラと輝く宇和海の向こうに九州地方の峰々を望みながら歩を進め、滑床山国有林のブナ原生林に到着しました。当地はブナを主体とした広葉樹林分で登山者にも人気ですが、樹木の幹部と根元の樹皮や下層植物がシカ食害を受けて衰退し、林地荒廃に繋がる恐れがある場所です。このため、登山道沿いを主体として、平成18年からシカ防護柵を計17箇所、総延長5,620m設置してきたこと、柵の内側と外側で植物の繁茂状況に違いがみられるなどの効果があることや、一方で、ブナ

やカエデ類の高木が枯れて倒れシカ防護柵が損壊し、再び食害の影響を受けるため、定期的な点検が重要であることを説明し理解してもらいました。

さらに、ブナ原生林のなかを歩き、標高による植生変化の状況も確認しながらようやく三本杭山頂へ到着すると、石鎚山を遠望できるほどの好条件だったこともあり、初めて訪れたという研修生の皆さんは360度の大パノラマに感銘している様子でした。



ブナ林の植生状況を確認

### ○シカ防護柵点検作業

昼食後は登山道(復路)を下りながら2班に分かれてシカ防護柵の点検と補修作業の実習に取り組みでもらいました。点検を開始し、

登山道から離れ、シカ防護柵に沿って約50m移動した地点で早速、枯損した倒木による倒壊箇所を発見し、作業手順を確認した後、倒木や溜まった落ち葉を除去し、防護柵を再建する修繕作業を行いました。その後も点検を続けながら下山し、倒木による広範囲の損壊箇所を発見しましたが、実習予定時間内に修繕を終えることが困難と判断し、やむを得ず現地表示と図面上にマーキングし下山することとしました。研修生には、こうした地道な作業が植生を保護し、自然環境の維持と国土保全にもつながることを理解してもらえたと思っています。

### ○おわりに

登山口まで下山した後、愛媛森林管理署が管理している囲いわな設置箇所へ移動し、国有林でもシカ捕獲事業にも取り組んでいることを説明し、現地研修の締めとして森林管理推進センター研修教務

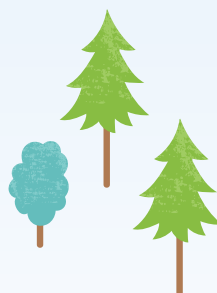


三本杭山頂からの眺望

課長から御礼の挨拶を受け、今回の研修も無事終了となりました。当ふれあい推進センターでは、自然再生事業の取り組みとともに、各小中学校を対象とした森林環境教育や林業関係機関への支援等も引き続き実施してまいります。



森林管理推進センター研修教務課長の挨拶



枯損木により倒壊したシカ防護柵網



## 若手職員、刃物の「ちよつとした」技術を学ぶ

〈高知中部森林管理署〉

5月28日に、若手職員5名が、健康協議会に参加し刃物による公務災害の防止について学びました。

これは、昨年度から実施している高知中部森林管理署での安全に関する取り組みの一環であり、全国で実際に発生した災害から、どうして怪我をしたのか、災害を防止するには何が必要だったのかなど、鉋や鋸と樹木（刈り払い物）を使って学ぶものです。



当日は、雨天であったことから室内での開催となり、事前に森林官から、広葉樹やツルを準備してもらい現場を再現しました。

まずは、刃物の形状について、自分が支給を受けている鉋の刃はどのようになっているか見てもらい、右利き・左利き用の違いを確認しました。刃の特性で対象物（枝や幹）に食い込む角度によって、弾かれて手元が思わぬ方向へそれたりすることを学びました。

現場の調査業務などでは除去が必要となる灌木類が多くあります。ツル類については、特に造林木にまきついたり・垂れ下がっているなど状況がまちまちで、その対処は経験がないとうまく処理ができないことがあります。どこを切断するのか、どこを持って（支えて）安全な処理ができるのか、若手職員に考えてもらい、その方法が適切か実際の動作を行ってもらいました。

その後、ベテラン職員から、実際に除去する際にはどこに注意を払うのか、何から始めるのか、力

の入れ具合などについて身体の動きを交えながら説明を行いました。

昨年度、全国では刃物を鞘から「抜く」「しまう」などの動作で刃が手に触れて、けがをするものが多く発生しています。何気ない動作で災害が発生しないように刃物の取扱いには、「手袋を使用する」「鞘にはしっかりと固定する」などの事前準備や点検が重要であり、また、作業における安全の第一歩は、周辺状況の確認と作業にあつた服装を着用することであることから保護具と基本動作の必要性についても学びました。

現場業務の経験が少なくなった職員が増えてきたため、ちよつとした技術（大事な基本動作）を学ぶことは、事故の未然防止に欠かせない取り組みと考えており、引き続きこのような勉強会を実施して参りたいと思います。





# 着任あいさつ



## 総務課長 小川 和幸

令和6年4月1日より四国森林管理局総務課長を拝命した小川です。

平成23年4月に四万十森林管理署から四国森林管理局職員厚生課（平成25年4月より総務課）に異動になってから、総務課で係長、補佐、企画官と課内異動を繰り返しながら、気が付けば総務課での勤務が10年以上となりました。

総務課長として3カ月が過ぎ、その間、各種会議の司会進行や4月に発生した豊後水道地震での職員安否確認など慣れない業務が色々ありました。が、課内職員はもとより、各課・各署（所）の皆様のご協力を得ながら日々業務に取り組んでいるところであり、感謝申し上げます。

さて、総務課では、職員の安全、人事、共済組合、宿舎、給与及び研修など多岐にわたる業務を行っています。

総務課の業務は、技術系の業務と違って現場出張の機会も少なく、一般的に事務作業が中心であり、地味

な業務に思われがちではありますが、職員の方々が心身ともに健康な状態で働くうえで、縁の下の力持ちのような存在であると思っています。

このようなことから、まず、職員の健康増進等の諸対策を積極的に推進し、令和6年度四国森林管理局職員の保健及び安全保持計画の目標でもある「災害のない健康で明るい職場づくり」を職員の方々と一緒に実現して取り組んでいきたいと思っています。

四国森林管理局の公務災害は過去10年間で44件発生しており、なかでも転落・転倒に起因する災害が20件と全体の45%を占めています。

このため、局・署（所）・現場が一体となり、現場作業時には、作業手順・作業姿勢に注意し災害の未然防止に努めるとともに、移動時の作業環境の把握、足元の確認と足場の確保等について確実に実践し、急傾斜地で転倒・転落の恐れがある箇所については、確実に迂回するなど類似災害の防止の2取り組みをお願いします。

次に、職員の心の健康づくりです。

職員が心身ともに健康で公務遂行に高い意欲を持ち続けることは、職員及び家族にとって重要であることはもとより、職員が高い志気を持って能力を十分に発揮し、効率的かつ的確に国有林野事業の政策を推進していく上でも重要です。

しかしながら、近年、国有林野事業を取り巻く環境が変化していく中、業務の質的・量的変化等により職場環境についても一段と厳しさを増したことに加え、職員が個々に抱える事情も相まって、心の不調を訴える職員が増加しています。

このため、職員の心の健康づくりのため、職員、管理監督者、人事管理担当者、健康管理担当者、専門家及び家族がそれぞれ協力・連携し、それぞれの役割を果たすことにより職員の心の健康づくりを推進していきますので、職員の方々のご理解・ご協力をお願いします。

最後になりますが、職員の方々が、風通しの良い明るい職場で楽しく仕事ができるよう努めたいと思いますので、どうぞよろしくお願いたします。



安芸森林管理署は、高知県東部の国有林を管轄しており、管内には貴重な森林資源である魚梁瀬スギを有する干本山、野根山街道風景林、西又山ブナ林など多種多様な森林があります。今回は、干本山の魚梁瀬スギとは違い、二又やコブのある奇妙な形状の天然スギがある段ノ谷山の天然スギ群を紹介します。

段ノ谷山は高知県の南東部に位置する標高約930mの山で、山頂付近には「四国のみち」として知られる野根山街道が通っています。段ノ谷山天然杉群は、段の谷林道と野根山街道を結ぶ全長約1.5km、高低差300m強の登山道中にある天然杉の巨木が群生するエリアで、室戸市と「佐喜浜躍動天然杉協定の森」の協定を結んでおり、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」のみどころの一つとしても紹介さ

れています。

天然杉群へ至る「段ノ谷山登山口」までは国道55号線と県道368号線（佐喜浜吉良川線）の分岐から車で約50分、未舗装の道を含む約17kmの道のりです。国道から遠く付近には人家もないため、街の喧騒から離れ、からだ全体で自然を感じることが出来ます。登山口からしばらくはさまざまな広葉樹が立ち並び、歩道の端には樹木名のクイズを記した樹木名板が立てられています。登り始めてから約20分、登山口から550m地点にある「ハロー杉」から天然杉群が始まります。



ハロー杉からスタート



天上杉



火炎杉



段ノ谷山一雄大な「大杉」

ら空へまっすぐに伸びる「天上杉」、炎が燃えるように枝を広げている「火炎杉」、何本もの幹が並んで成長している「大杉」など、それぞれが長い歴史を感じさせる様々な姿を見せてくれます。

登山道は野根山街道の「地藏峠」付近につながっていて、合流地点から西側へ約2.5km歩けば「石佐の関所」、東側へ約6.4km歩けば四郎ヶ野峠に着きます。歩きながら、天然杉群による「自然の営み」、野根





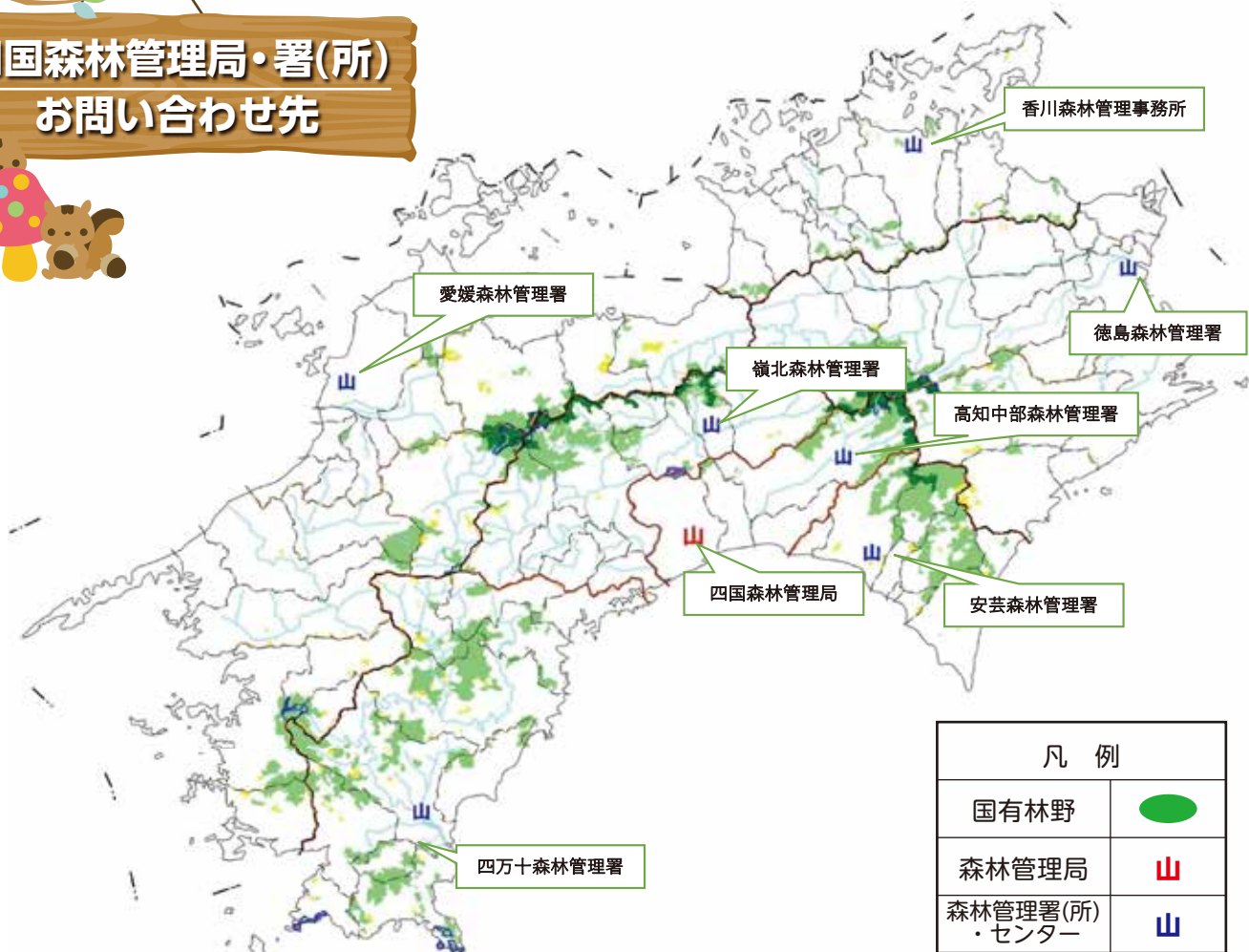
加奈木の崩え

山街道の「人の営み」を感じるこ  
とができる道のりです。  
段ノ谷山の付近には他にも、大  
規模な山体崩壊として知られ、大  
正6年から47年をかけて治山工事  
が行われた「加奈木の崩え」や、  
土御門上皇によって名付けられ、  
古くから土佐の三名水のひとつに  
数えられる「右佐の清水」（涸れて  
いる場合があります）など、数多  
くの見所があります。  
入林の際には入林届が必要にな  
りますので、安芸森林管理署（0  
887-34-3145）まで「連絡  
ください。」



安芸署で作成している「段ノ谷山天然杉のガイドマップ」

# 四国森林管理局・署(所) お問い合わせ先



| 称 名       | 住 所                 | TEL          |
|-----------|---------------------|--------------|
| 四国森林管理局   | 高知県高知市丸ノ内1-3-30     | 088-821-2210 |
| 徳島森林管理署   | 徳島県徳島市川内町鶴島239-1    | 088-637-1230 |
| 愛媛森林管理署   | 愛媛県松山市朝美2-6-32      | 089-924-0550 |
| 四万十森林管理署  | 高知県四万十市中村丸の内1707-34 | 0880-34-3155 |
| 嶺北森林管理署   | 高知県長岡郡本山町本山850      | 0887-76-2110 |
| 高知中部森林管理署 | 高知県香美市物部町大栃1539     | 0887-58-3131 |
| 安芸森林管理署   | 高知県安芸市川北乙1773-6     | 0887-34-3145 |
| 香川森林管理事務所 | 香川県高松市上之町2-8-26     | 087-866-6622 |

## 入林される皆様への注意事項

- 国有林に入林するには、以下の事項について注意してください。
- ①草木やキノコなどの採取、樹木の伐採や損傷をしないでください。
  - ②自然保護などのために立入が制限されている箇所へは入らないでください。
  - ③ゴミは持ち帰りましょう。
  - ④枯木や枯れ枝は危険ですので、近寄らないでください。
  - ⑤タバコなど火の取扱いには十分注意してください。
  - ⑥林道は未舗装箇所が多数あります。通行の際にはご注意ください

登山は自己責任です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で入山してください。また、ご家族へ行き先を告げるとともに、登山目的地を管轄する警察署等へ登山計画書を提出してください。